



神山天文台マスコットキャラクター
ほしみ～るちゃん®

Schedule 今月の開館スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6 ×
7 ×	8	9	10	11	12	13 ×
14 ×	15 × 海の日	16	17	18	19	20
21 オープンキャンパス 施設見学 10:00-16:00	22	23	24	25	26	27
28 ×	29	30	31			

施設見学 9:00～16:30
土曜日は天体観望会実施日のみ 14:30～17:30

天体観望会 19:00～21:00
(定員あり/要予約)

× 休館日

月の形 (満月・新月・半月および
観望会で月が見えるとき)

事務室閉室日
(問い合わせ等対応不可)

施設見学

1階常設展示フロアでは企画展「太陽系のお天気」展(5月7日～8月9日)、また、3階では荒木望遠鏡(国内私立大学最大口径の反射式望遠鏡)の見学が可能です。(常設展は企画展期間中は休止しています)

天体観望会

荒木望遠鏡や小型望遠鏡で天体を観察することができ、天文台専門スタッフが望遠鏡や天体について解説を行います。
また、宇宙の3D映像上映会を開催します。(7月6日、13日は休止)

よくある質問?

観望会でよく聞かれる
質問にお答えします★

① 荒木望遠鏡で天の川は見えるの?

望遠鏡は狭い範囲を拡大するため、たとえば天の川の中にある星を見ることはできますが、天の川の形を望遠鏡で確認することはできません。天の川の形を見るには、京都市内の街明りに邪魔されないように、もう少し市街地から離れた場所へ行く必要があります。山や海などへ旅行に行かれた際には、ぜひ、天の川を探してみてください。

② セタの夜、織姫星と彦星は本当に近づくの?

残念ながら、織姫星(こと座のベガ)と彦星(わし座のアルタイル)がセタの夜に近づくことはありません。実際には織姫星と彦星との間は、この世で一番速い光でさえ14年半もかかるほど離れています。天の川をはさんで輝いている2つの星の配置から、中国でセタ伝説が生まれ、日本へ伝わってきました。

③ どうすれば流れ星を見ることができますか?

月や街の明かりにじゃまされないような空の暗いところ、また、空が見わたせるところに出かけてみてください。数時間に1～2個くらいの流れ星を見ることができそうです。『流星群』の時期をねらって夜空を見上げるのもオススメです。いつもより多めに流れ星を見ることができます。

★ ペルセウス座流星群(8月13日ごろ) 月明かりがなく好条件!

★ ふたご座流星群(12月14日ごろ) 満月近くの月があり、条件×...

企画展

太陽系のお天気展 開催中～8月9日(金)開催!

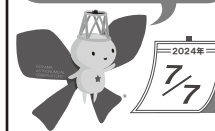
太陽系には8個の惑星があり、その環境はさまざまです。それぞれの惑星のお天気を比べてみます。また、太陽の活動と関係の深い宇宙天気についても紹介します。

この展示は、明石市立天文科学館 2/3～4/7で開催されていた特別展を巡回するものです。特別展の担当学芸員は、本学理学部 宇宙物理・気象学科の卒業生(令和2年卒業)です。また、神山宇宙科学研究所が協力しており、金星や火星の気象学を専門とする高木 征弘教授、佐川 英夫教授、安藤 紘基准教授、小郷原 一智准教授(全て本学理学部)が展示内容の監修を行いました。



夏の大三角

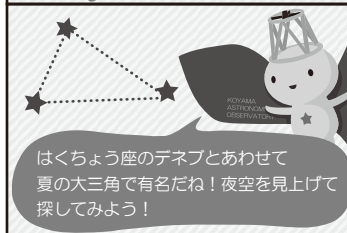
今年もセタの季節が
やってきたね!!



1年に1度だけ、織姫と彦星は天の川を
渡って会えるという言い伝えがあるけど



織姫星はこと座のベガ、
彦星はわし座のアル
タイルのことなんだよ!



はくちょう座のデネブとあわせて
夏の大三角で有名だね! 夜空を見上げて
探してみよう!

2024年7月 見ごろの天体

★夏の三角形（なつのだいさんかく）：The summer triangle

はくちょう座のデネブ、わし座のアルタイル、こと座のベガの3つの明るい星を結んで描かれる大きな三角形は夏の三角形と呼ばれています。ベガとアルタイルは、七夕の伝説における「織姫」と「彦星」です。

★二重星（にじゅうせい）：Double star

重星は、肉眼で見ると1つの星ですが、望遠鏡で見ると2つの星に見えます。夏に見られる代表的な重星には、はくちょう座のアルビレオ（金色と青色の2つの星が寄り添って見える）、さそり座のβ星（爽やかな青いペア）があります。こと座には、二重星がさらに2つずつの二重星となっている、ダブル・ダブル・スターと呼ばれる星もあります。

★球状星団（きゅうじょうせいだん）：Globular cluster

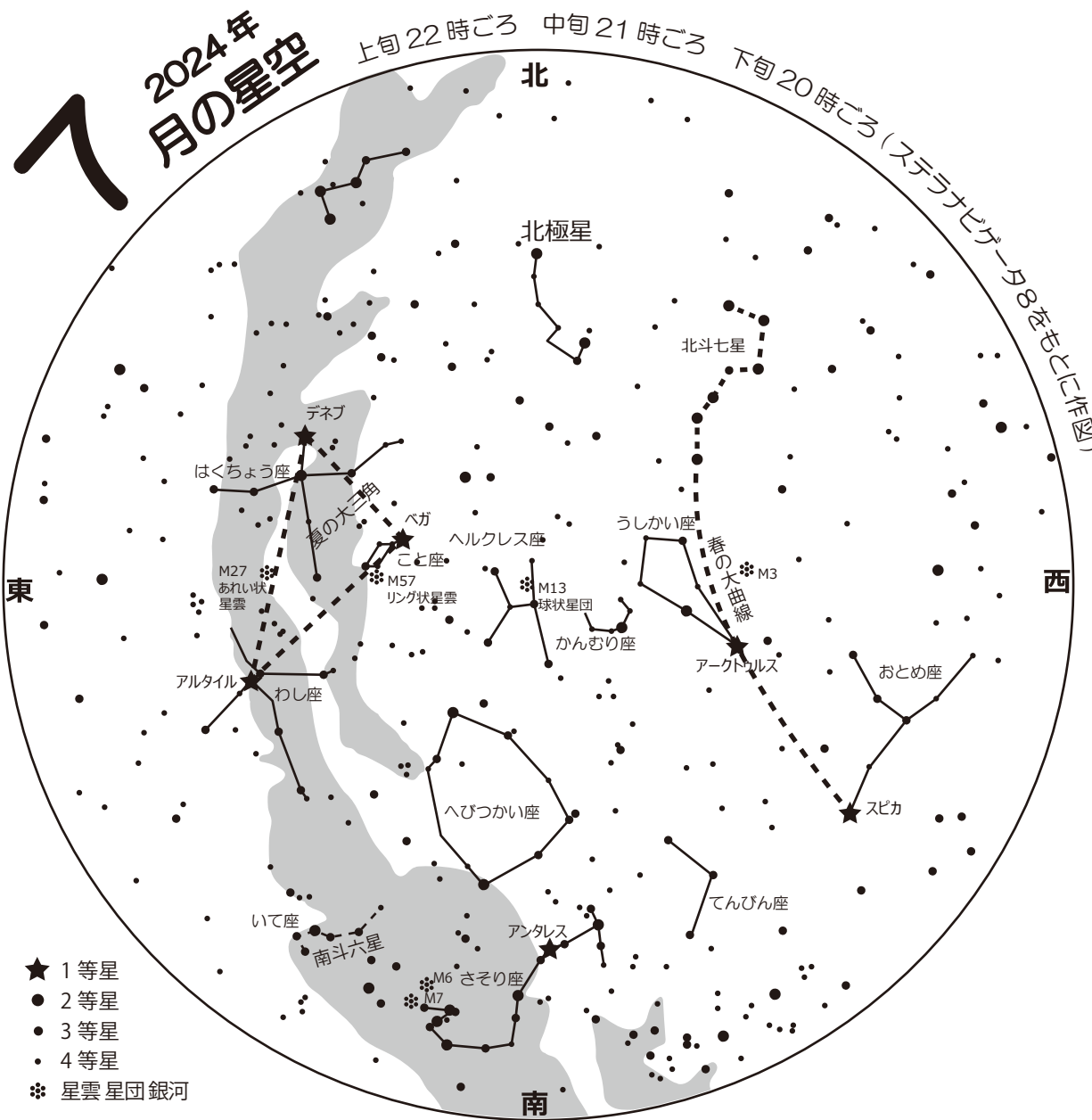
球状星団は、数十万の恒星の集まりです。私達の銀河系の中には、約150個の球状星団があり、球状星団の中の星たちは非常に高齢で、100億歳以上の星もたくさんあります。夏には、ヘルクレス座のM13、りょうけん座のM3、へび座のM5などの球状星団が見られます。

★赤色巨星（せきしょくきょせい）：Red giant

恒星は、一生の大部分は安定して輝く時期（「主系列星」と言います）が続きます。しかし、恒星の内部の水素を使い果たすと、恒星は自身の重力で縮み始め、その際に発生する熱によって外側のガスはさらに外へと膨張し、巨大な星になります。膨張すると表面の温度が低くなるため赤色に見えます。夏には、うしかい座のアークトゥルス（直径は太陽の約20倍）やさそり座のアンタレス（直径は太陽の約600-800倍）が見られます。

★惑星状星雲（わくせいじょうせいうん）：Planetary nebula

太陽程度の重さの恒星は、一生の最後に水素ガスを使い果たして赤色巨星となった後、外側のガスを周囲に放出します。この放出されたガスが輝いて見えるのが惑星状星雲です。望遠鏡で見たときに、まるで惑星のように丸くほんのり色づいていることから、このような名前がついています。こと座にはリング星雲と呼ばれる惑星状星雲M57があり、望遠鏡で見るとドーナツのような形を見ることができます。



- ★ 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星
- ※ 星雲 星団 銀河

7月7日 七夕

織姫、彦星の物語が有名な七夕は、中国の裁縫の上達を願う「乞巧奠（きこうでん）」と、日本の「着物を棚に供え、秋の豊作を祈り、穢れを払う行事」とが合わさった行事といわれています。裁縫だけでなく、書道や芸事など、いろいろな願い事をしますね。現在の暦では7月7日は梅雨明けが多いことが多く、織姫、彦星も遅い時間にならないと昇ってきません。月をもとにした暦、旧暦のほうが季節感が合います。今年の旧暦の伝統的七夕は8月10日です。